

子供へのお話参考例



鉛筆が泣いている？

みんなは鉛筆を何本持っていますか？ ふで箱だけではなく、机の引き出しの中にもたくさん入っていませんか？ それだけでなく、長いまま忘れられている鉛筆、芯が折れたまま見向きもされない鉛筆など、たくさんあるかもしれませんね。これでは、鉛筆は泣いているかもしれません。

では、この鉛筆はどのようにして出来上がってきたのでしょうか？

山奥で、みんなの年齢の何倍もの年月をかけて育てられた「木」から出来上がっているのです。木は、大きくなって切り倒し、製材所で細かくし、そして工場で、勉強するために必要な鉛筆に仕上げられ、ようやくみんなの手元に届くのです。

このように一本の鉛筆は、多くの人の真実の働きと、時間をかけて作られているのです。

教祖は「菜の葉一枚でも、粗末にせぬように」また「物は大切にしなされや。生かして使いなされや。すべてが、神様からのお与えものやで」と仰せになって、物に対する私たちの考え方を教えてくださいました。

この世のすべての物は、親神様からお与えいただいているものです。親神様に感謝して、鉛筆だけに限らず、すべての物を大切に使い、またこれらを作って下さった多くの人の真実の心にお礼が言えるようになりましょう。

